

---

# 東京都微生物検査情報

## MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

---

第42巻 第1号  
2021年1月号  
月 報



東京都健康安全研究センター

*<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>*

---

ISSN 1883-2636

## COVID-19 流行下におけるインフルエンザの流行状況(東京都:第 36 週～第 4 週)

### 1. はじめに

インフルエンザウイルスは、オルトミクソウイルス科に属するエンベロープを持つ一本鎖 RNA ウィルスであり、急性呼吸器疾患の主要な原因ウィルスの一つである。インフルエンザウイルスは、A～D の 4 つの型に分類され、ヒトでの流行は主に A および B 型が原因となっている。A 型インフルエンザウイルスは、膜タンパク質であるヘマグルチニン (HA) およびノイラミニダーゼ (NA) の組み合わせにより、さらに多くの亜型に分類される。

日本におけるインフルエンザの流行は主に冬季にみられ (46 週～翌年 20 週)、A/H3N2 亜型、A/H1N1pdm09、B 型 Victoria 系統並びに Yamagata 系統の 4 種類が原因となる。一方で、北半球と季節が逆になる南半球では、インフルエンザの流行は夏季にみられ、7 月をピークとした流行が繰り返されている。

現在、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が世界各地で蔓延している。このような背景を踏まえ、本稿では、COVID-19 流行下における国内外のインフルエンザ流行状況について報告する。

### 2. 海外におけるインフルエンザの流行状況

WHO のデータリソース (<https://apps.who.int/flu/mart/Default?ReportNo=12>) に基づき、オーストラリア、米国、カナダ等のインフルエンザの発生状況について報告する。

2020 シーズン、南半球の 3 か国 (オーストラリア、チリ、南アフリカ) では、COVID-19 の影響を強く受けていることが報告されている (図 1)<sup>1)2)</sup>。これら 3 国の過去 3 シーズン (2017-2019 シーズン) では 178,690 件中 24,512 件 (13.7%) で、インフルエンザウイルスが検出されていたが、2020 シーズンは 83,307 件中 51 件 (0.06%) と著しく減少した<sup>1)</sup>。なお、これらの国々においては、COVID-19 検査を行うと共にインフルエンザ検査を維持しており、検査数減少による検出数低下ではないとされている。

2019/2020 シーズン、米国においては、COVID-19 による国家緊急事態宣言後、インフルエンザウイルス検査数を維持していたにも関わらず、急激に陽性率が低下したことが報告されている (図 2)<sup>1)</sup>。また、

カナダにおいても、最も人口が多いオンタリオ州での緊急事態宣言後、同様の傾向が確認されている。なお、2020/2021 シーズンの米国 (第 40～第 4 週) やカナダ (第 35 週～第 4 週) においては、陽性率が 0.16～0.38% (2019/2020 シーズン: 1.3～28.28%)、0.02～0.08% (過去 5 シーズン平均: 0.82～23.96%) と低値で推移している<sup>3)4)</sup>。

### 3. 都内における 2020/2021 シーズン流行状況

日本におけるインフルエンザの流行シーズンは、毎年 9 月 (第 36 週) を境にシーズン分けされており、2020 年第 36 週～2021 年第 35 週が 2020/2021 年シーズンとなる。

都の 2020/2021 シーズンの定点あたりの患者報告数は、0.00～0.01 人で推移し (第 36 週～第 4 週)、流行開始基準 (1 人/定点) に至っておらず、昨年比の 100 分の 1 以下と著しく少ない (図 3)<sup>5)</sup>。また、感染症発生動向調査による東京都健康安全研究センターへの検体搬入は、例年と比較し非常に少なく、19 件 (同時点: 2018/2019 シーズン 257 件、2019/2020 シーズン 376 件) であった (図 4、図 5)。なお、これら 19 件からインフルエンザウイルスは検出されおらず、他のウィルス遺伝子が 8 件 (ライノウィルス 5 件、アデノウィルス 2 件、コクサッキーウィルス 4 型 1 件) 検出されている。

日本におけるインフルエンザ患者報告数は、1 月に国内で COVID-19 が報告されて以降、大きく減少している。これは、主に COVID-19 への感染対策 (マスク着用、ソーシャルディスタンス等の 3 密防止策等) が寄与していると考えられる。

今後、インフルエンザがどのように発生してくるのか、予測がつかないが、今シーズン以降の流行状況を注意深く監視していく必要がある。

#### <参考文献>

- 1) Sonja, J, O., et al.: *Am J Transplant*, **12**: 3681-3685, 2020.
- 2) 国立感染症研究所: 病原微生物検出情報, 41, 18-19, 2019.
- 3) CDC: Flu View Interactive, <https://www.cdc.gov/>

flu/weekly/fluviewinteractive.htm

- 4) Canada.ca : Weekly influenza reports,  
<https://www.canada.ca/en/public-health/services/diseases/flu-influenza/influenza-surveillance/weekly-influenza-reports.html>

- 5) 東京都感染症情報センター：WEB 感染症発生动向調査,

<https://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/epimenu.do>

(ウイルス研究科 熊谷 遼太)

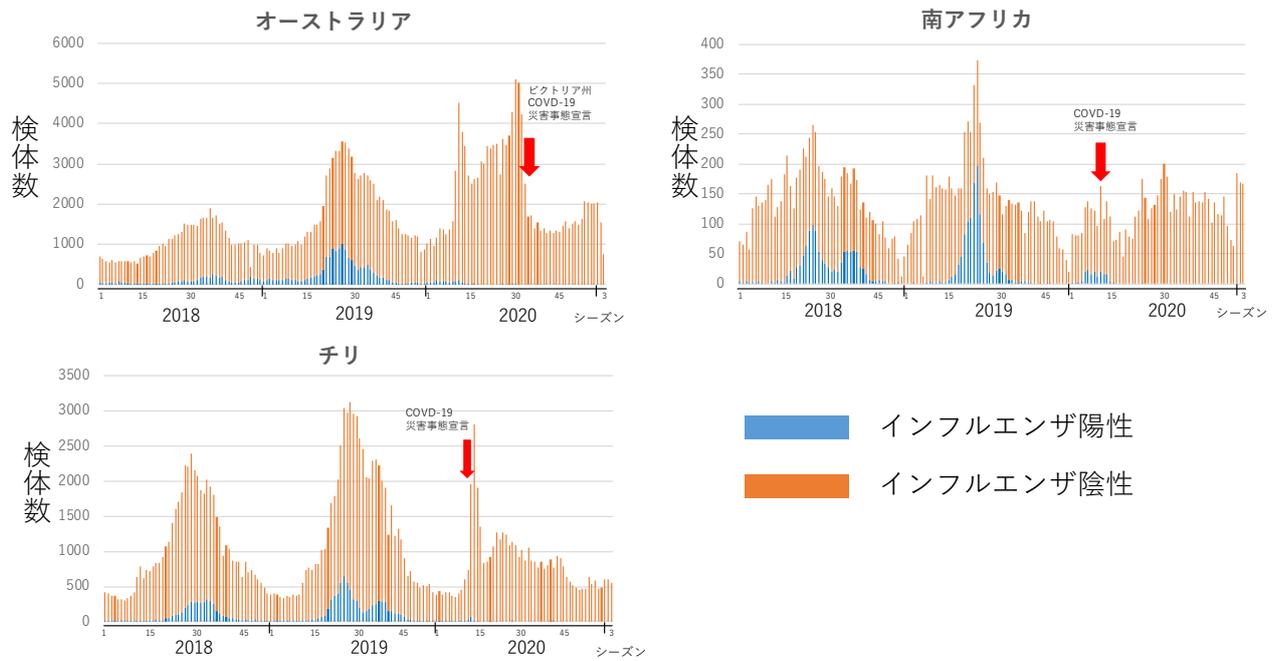


図 1. 南半球(オーストラリア、南アフリカ、チリ)におけるインフルエンザウイルスの流行状況 (2018 シーズン～2021 シーズン第 3 週)

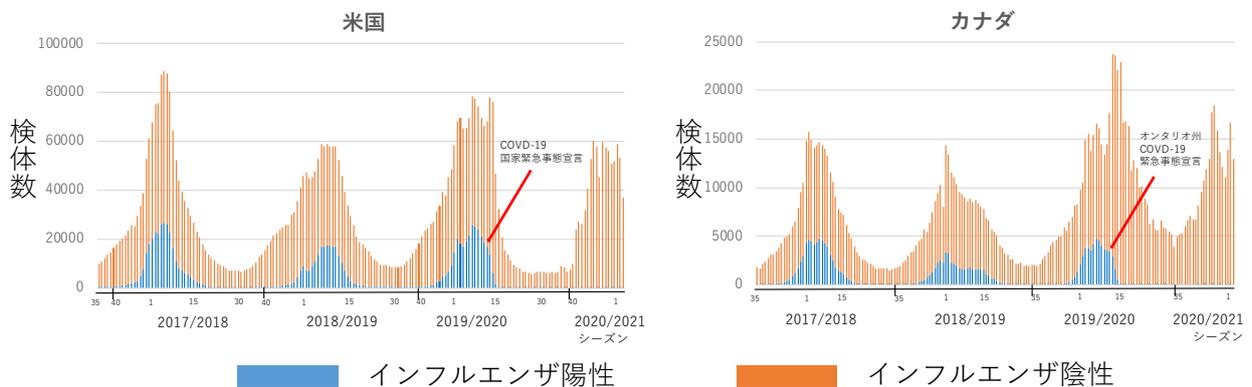


図 2. 米国、カナダにおけるインフルエンザウイルスの流行状況 (2017/2018 シーズン～2020/2021 シーズン第 3 週)

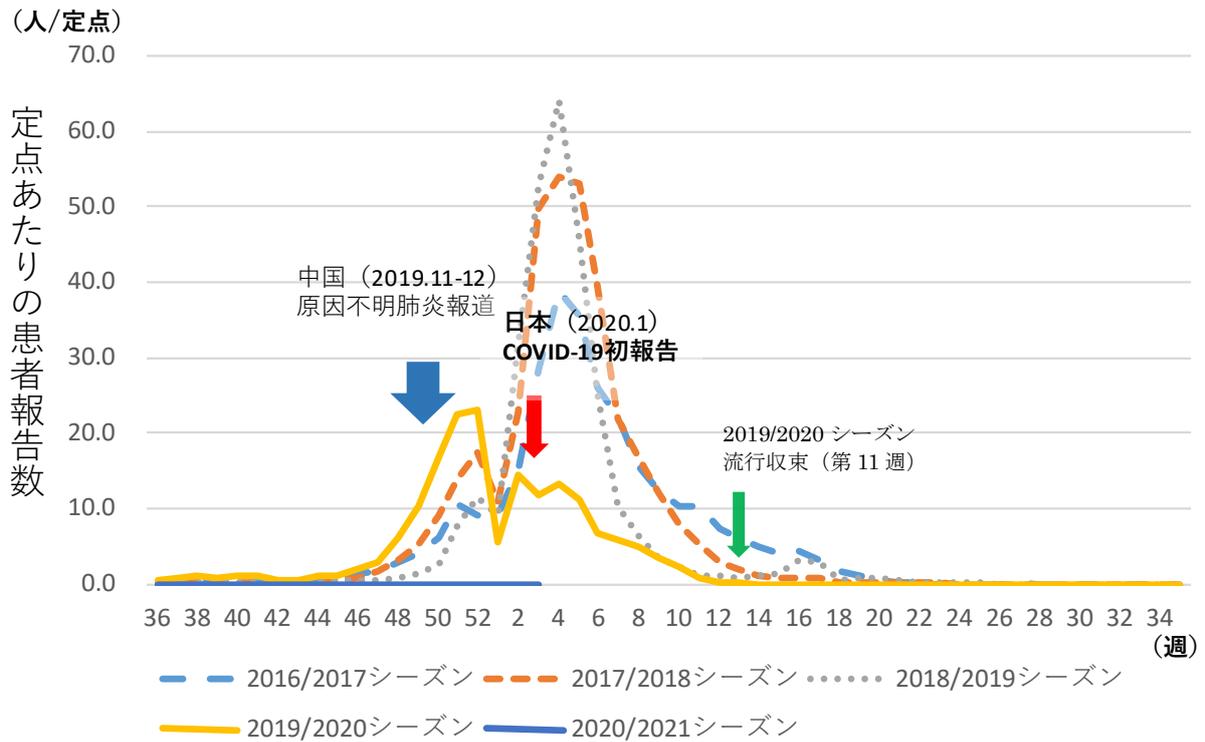


図 3. 東京都における定点医療機関当たり患者報告数

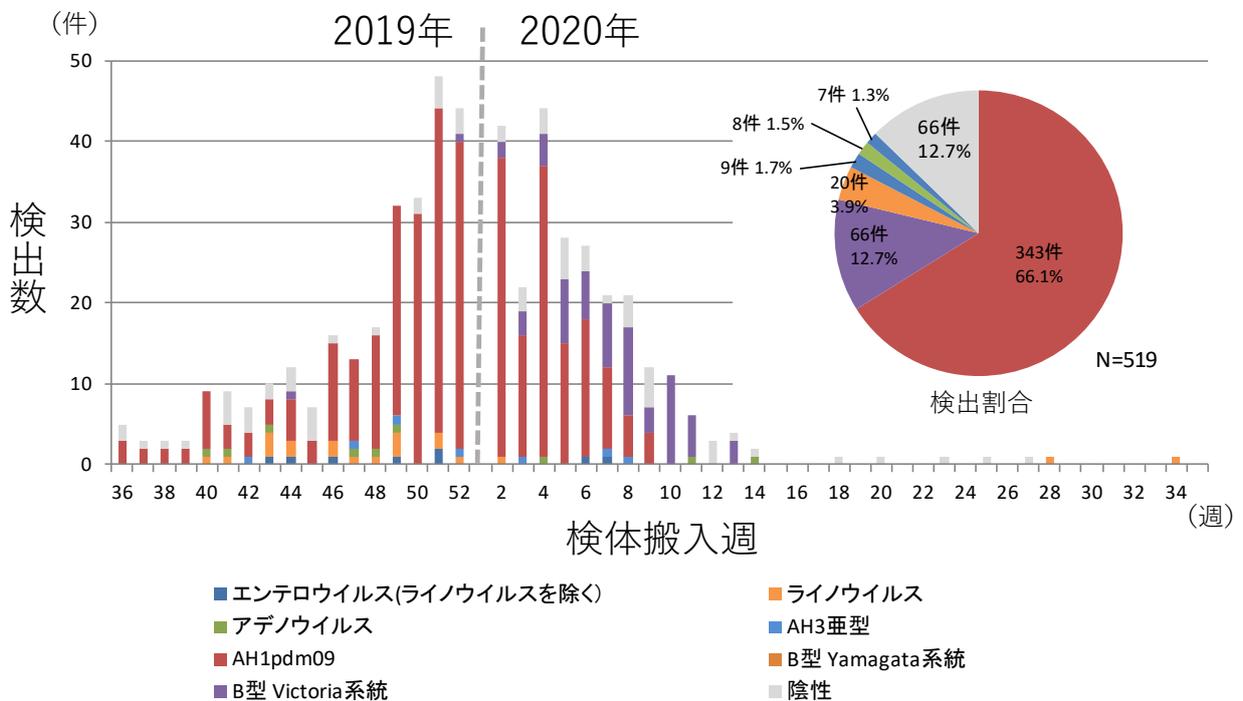


図 4. 2019/2020 シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数及び検出状況

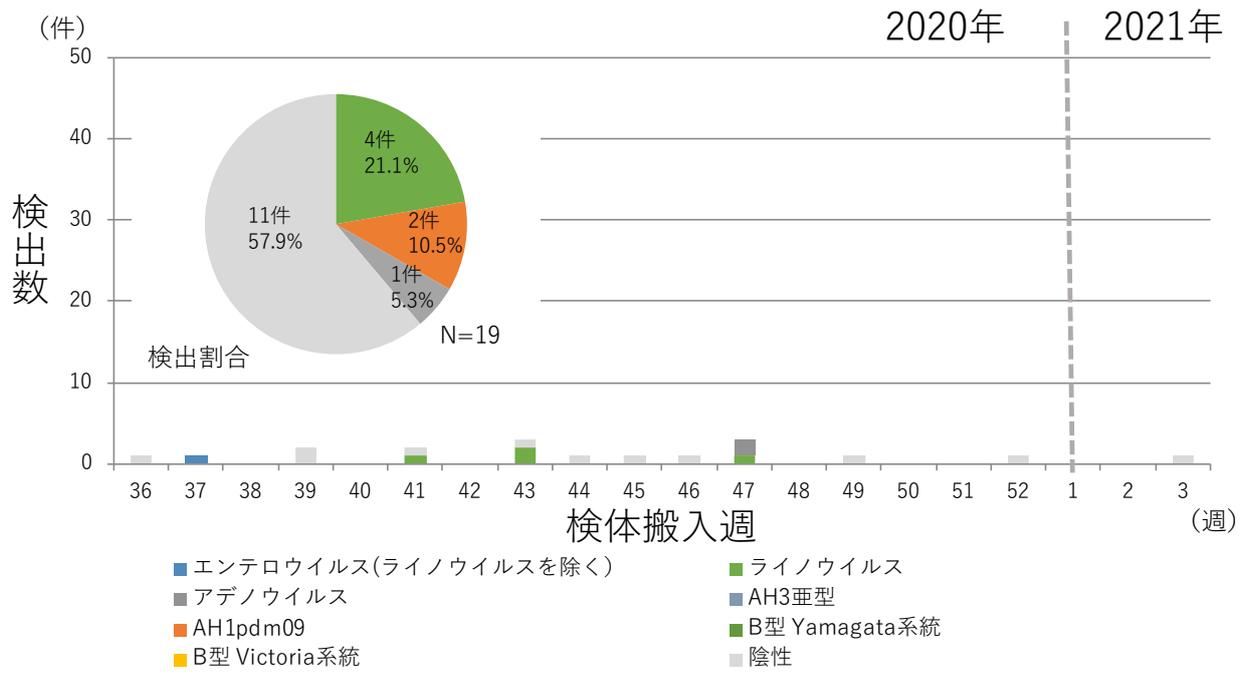


図 5. 2020/2021 シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数及び検出状況

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)\*

2021年1月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	腸管出血性大腸菌	結核菌
区	千代田区						
	中央区						
	港区					1	
	新宿区						
	文京区						
	台東区						1
	墨田区						
	江東区						
	品川区						
	目黒区						
	大田区					1	3
	世田谷区						2
	渋谷区						
	中野区						
	杉並区						
	豊島区						
	北区					2	
	荒川区						
	板橋区						
	練馬区						
足立区							
葛飾区							
江戸川区							
市	町田市		1				
	八王子市						1
小計			1			4	7
都	西多摩						
	多摩立川					2	
	南多摩						
	多摩府中						
	多摩小平						
	島しょ						
小計						2	
合計			1			6	7
健康安全研究センター 検出分						3	

\*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)\*

2021年1月分

	検体数	2020年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)		
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)		
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	4	4
播種性クリプトコックス症(菌)	1	1
合計	5	5

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2021年1月分

	菌種名	検体数	2021年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		
	組織侵入性		
	腸管出血性		
	その他・不明		
	サルモネラ		
	O4		
	O7		
	O8		
	O9		
	その他		
	腸炎ビブリオ		
	プレジオモナス・シゲロイデス		
	カンピロバクター		
	黄色ブドウ球菌		
A型ウエルシュ菌			
ボツリヌス菌			
ウイルス	ノロウイルス(G I)	4	4
	ノロウイルス(G II)	1	1
	ノロウイルス(G I, G II)	1	1
	ロタウイルス		
	サポウイルス		
寄生虫	アニサキス	3	3
	クドア		
合計		9	9

**表4 HIV 検査数及び陽性数**

2021年1月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	639	9	176	0	0	0	815	9
保健所等	31	0	19	0	0	0	50	0
合計	670	9	195	0	0	0	865	9
2020年累計	670	9	195	0	0	0	865	9

**表5 性感染症検査数及び陽性数**

2021年1月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	724	71	0	0	0	0
保健所等	88	2	87	7	68	0
合計	812	73	87	7	68	0
2020年累計	812	73	87	7	68	0

**定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）**

過去3か月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	11月	12月	1月	合計
小児科	咽頭結膜熱	アデノウイルス		1	1	2
	ヘルパンギーナ	エンテロウイルス	1	1		2
	不明発疹症	アデノウイルス	1			1

◆東京都微生物検査情報◆

2021年 7月 5日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>